場所　新潟県新潟市

面積　7.3ha

活動目的　本地域の自然環境の価値を持続させ、自然を活かした交流活動や、環境・歴史・文化などを学べる場として利活用を図ることを目的とする。



サイト概要

じゅんさい池は、物見山砂丘と呼ばれてきた砂丘地の中に自然に形成された2つの砂丘湖（東池と西池）からなり、水草のジュンサイが繁茂していたことから、じゅんさい池の名がつけられた。じゅんさい池は散策や自然観察など、様々な目的で利用され、憩いの水辺空間として多くの人に親しまれている。２つの池を取り囲む斜面がアカマツを始めとした樹林に覆われていることが大きな特徴である。

じゅんさい池では70種類を超える野鳥が確認されているほか、多様な生物が生息している。

地域の取り組みとして、地元の地域コミュニティ協議会や公園愛護会等と連携し、環境保全活動や交流活動を行ってきた。

土地利用の変遷

かつては、ジュンサイの採取や湯治場、スキー場があったことなど、じゅんさい池は人々の暮らしと長く関わってきた。また、信仰の場であるとともに、伝説・伝承が残るなど、地域の歴史・文化を伝える場でもあった。宅地化の進行などによって池の水が枯渇したため、1980年から工業用水が導入されている。池の枯渇とともにジュンサイも絶滅したが、現在は1984年に旧笹神村（阿賀野市）から移植されたものが育っている。現在、じゅんさい池とその周辺緑地は公園として整備され、多くの市民の方々に親しまれている。

サイト周辺の環境

本サイト周辺が宅地化していく中、周囲には砂丘地形の痕跡が残っている。

アピールポイント

・砂丘湖である2つの池とアカマツを中心とした様々な樹木や野鳥等が生息する市街地の中の貴重な緑地環境であること。

・ジュンサイの採取や湯治場、スキー場があった歴史や伝説・伝承が残るなど長く暮らしに関わってきた地域の文化を伝える場であること。

・公園を憩いの場として親しむ利用者はもちろん、保全活動、交流活動を担う地域に支えられた場所であること。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

じゅんさい池とその周辺緑地は公園としての機能を有し、多くの市民に親しまれている。夏には、専門家による案内で夜のじゅんさい池を探検する等の生態系を体感できる活動を行っている。

【主な植生】

区域内における主な植生は、常緑針葉樹（アカマツ）と落葉広葉樹、常緑広葉樹からなっている。

【確認された主な動植物など】

申請区域には植物24種類、鳥類70種類、動物40種類が確認されている。主な種は以下のとおり。
植物：アカマツ、エノキ、クヌギ、シロヤナギ、タブノキ、シロダモ、ヒサカキ、コマユミ、ジュンサイ、シロバナサクラダテ、ガマ等
鳥類：コゲラ、カワセミ、ヒヨドリ、ウグイス、キジバト、オナガ、アオサギ、シジュウカラ、モズ、バン、オオルリ、キビタキ、コマドリ、マヒワ、カルガモ、ツグミ、シメ、コガモ、オオバン等
魚類：ギンブナ、トウヨシノボリ等
その他動物：ミズムシ、コミズムシ類、アメンボ、イトトンボ類、キイトトンボ、モノサシトンボ、コフキトンボ、チョウトンボ、ショウジョウトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオルリボシヤンマ、ギンヤンマ、ナメクジ、ヒダリマキマイマイ、セグロアシナガバチ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、アズマモグラ、ホンドタヌキ等



写真の説明：ナイトウォークイベントの様子



写真の説明：バン（じゅんさい池で毎年繁殖）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

じゅんさい池は、２つの砂丘湖を取り囲む斜面がアカマツを始めとした樹林に覆われていることが大きな特徴であり、希少種の生息・生育地として適した環境となっている。

【確認された希少種】

本サイト内ではこれまでの調査において、環境省レッドリスト、レッドデータブックにいがた又は新潟市レッドデータブックに掲載された希少種として植物2種（ジュンサイ等）が生育している。

«ジュンサイ（学名：*Brasenia schreberi*）»
レッドリスト：新潟県絶滅危惧Ⅱ類（VU）、新潟市絶滅危惧Ⅰ類（EN）
1985年頃、旧笹神村（阿賀野市）から移植し、定着。繁殖有り。



写真の説明：ジュンサイ（浮葉植物）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

＜活動目的＞
地域住民等の憩いや環境教育、レクリエーションの場として、また地域の生物多様性の保全に貢献すること。

＜活動内容＞
上述の価値(4)及び(5)の保全に貢献するよう以下の利用・保全活動を行う。
◎2つの砂丘湖（西池、東池）
・公開エリアとし、地域住民の憩いの場や自然を体感できる活動の場として利用。（価値(4)）
・園芸スイレン及びヨシ等の刈取り。水中の園芸スイレンの根茎、木材等の除去。
・条件付き特定外来種の定期的な駆除（ミシシッピアカミミガメ、アメリカザリガニ）
◎周辺緑地
・公開エリアとし、地域住民の憩いの場や自然を体感できる活動の場として利用。（価値(4)）
・公園愛護会等と協働し、園内を除草。
・2つの砂丘湖（西池、東池）をとり囲むアカマツについて、松くい虫被害を防止するため樹幹注入を実施し、植生の維持に努める。

＜実施体制、計画の点検・見直し＞
活動責任者が中心となってこれら活動を実施。水辺ゾーンの活動は地域団体と連携。定期的に取り組みの進捗状況の点検と改善を行う。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
植物、鳥類、魚類、昆虫類（トンボ類等）を対象とする。

【モニタリング場所】
サイト全体
※①水辺ゾーン、②樹林ゾーン、③草地ゾーンに区分けする。

【モニタリング手法】
①水辺ゾーン：植物、鳥類、魚類、昆虫類（トンボ類等）を直接観察。
②樹林ゾーン：鳥類は目視・鳴き声確認。植物、昆虫類は直接観察。
③草地ゾーン：鳥類は目視・鳴き声確認。植物、昆虫類は直接観察。

【モニタリングの実施時期及び頻度】
・基本的には、5年に一度、種に応じた適切な時期に実施。

【モニタリング実施体制】
・申請者が業務委託による実施を基本とし、必要に応じて、じゅんさい池ガイドブックの執筆に携わった有識者等の協力を得ながら実施。
・鳥類や昆虫類は、必要に応じて市民参加型の観察会を通じたモニタリングを実施する。